はらんべぇ・れお　28号

2018年2月発行

Contents

【1】新規奨学生エスターさん紹介
【2】奨学生なぅ
【3】ふれあい祭りレポート
【4】KESTES卒業生インタビュー
【5】KESTES運営委員　OBインタビュー
【6】チャリティオークション・総会レポート
【7】KESTESグッズができるまで

KENYA STUDENTS' EDUCATIONAL SCHOLARSHIP
run by Japan Overseas Cooperation Volunteers

新規奨学生
エスターさん　紹介

医者になり家族や地域の人々を助けたい、そんな夢を抱いているEsther（エスター）さん。この度、新規奨学生として支援していけることになりました。KESTESを支援していただいてる皆様、いつもありがとうございます。新規奨学生のエスターさんの紹介をさせていただきます。

エスターさんの住む街はキシイというケニア西部にある賑やかな都市にあります。キシイのタウンから乗り物に揺られ40分、賑やかな都市とは裏腹にのんびりとした農村部にエスターさんは住んでいます。現在Masogo mixed secondary school（高校）に在学していて、Form1（1年生） 15歳のちょっと恥ずかしがり屋の女の子です。プライマリー時代は学業と仕事(ハウスキーパー)を両立し、過酷な待遇を受けた経験もありましたが、そんな逆境も耐えうる忍耐強さと強い責任感を持っています。

6人兄弟の3女(上から三番目)で、末っ子の妹さんは動作や発語が不自由な病気を抱えていますが、病院に行けていない状況でした。また、両親の収入が不安定のため学費を滞納していて、学校のご厚意により在学できている状況でした。今回支援が始まり、在学が継続でき、また病院に行けていなかった妹さんも病院に通院できるようになりました。KCPE（ケニア統一初等教育修了試験）は332点、成績はB -と優秀な成績を維持しており、また本人の意思で、今の学校よりもレベルの高い学校に転入したいという希望があり、現在転入を検討中です。

エスターさんを推薦するにあたり、プライマリーの先生や現在の学校の先生など、多くの人々に彼女の希望を叶えたいと全面協力して頂きました。周囲の人々を魅了し、巻き込む人間力こそ優秀な成績以上に価値のある長所と感じています。

将来は、医者になり家族や地域の人々を助けたい、同じような貧しい人達に希望を与えたいという大きな夢を持っています。これからもエスターさんが大きく成長していけるよう、担当者として暖かく見守っていきたいと思います。

（2017年度4次隊　鈴木孝枝）

Term2(2学期)の成績

奨学生なぅ

奨学生名	学年	成績 （前回⇒今回）	校内順位（前回⇒今回） クラス順位（前回⇒今回）
Jemmimah(ジェミマ)さん	3	C+⇒**C+**	158位/414人中⇒**141位／407人中** 22位/59人中⇒**20位／58人中**
Keziah(ケジア)さん	1	C⇒**C+**	224位/283人中⇒**168位／283人中** 42位/56人中⇒**33位／57人中**
Kennedy(ケネディ)さん	1	**B-**	165位／251人中⇒**104位／250人中** 35位／63人中⇒**25位／63人中**
Esther（エスター）さん	1	**c+**	**3位／63人中**

※ケビンさんとサイラスさんはKCSE（ケニア統一高等教育修了試験）のため成績が出ません。

祝！ケビンさん・サイラスさん卒業！担当者と本人からのコメントです。

奨学生へのコメント

Form1（1年生）から支援していたケビンが11月23日をもって、無事セカンダリースクール（高校）を卒業することができました。おめでとう！KCSE（ケニア統一高等教育修了試験）の結果はまだですが、本人は「うまくいった」と言っており、清々しい様子を見ることができ、ほっと一安心しました。

奨学生からのコメント

KCSEの結果はまだでていませんが、数学、生物、化学、地理で手応えがありました。テストに向けて十分対策を講じることができたことで、自信を持てました。また、今年で卒業ということで、4年間にわたるKESTESのサポートにとても感謝しています。

奨学生へのコメント

セカンダリースクール（高校）卒業おめでとうございます。4年間しっかりと勉強してきた成果がKCSEに反映されて、ホントに良かった！家族の置かれている環境は厳しいけれど、サイラスならそれを変えるだけの力があると思います。これからも自分の目標に向かって、今まで通り努力を継続してください。

奨学生からのコメント

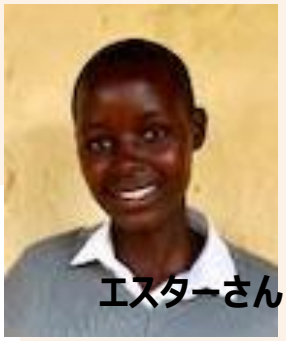
今まで支援を続けてくれてありがとうございました。支援をしてくださった全ての方々に、神のご加護がありますようお祈りしています。おかげさまで、KCSEに強い手ごたえを感じています。

各奨学生たちからのコメントです。

【ジェミマさん】
たくさん勉強したので、前回よりもクラス・校内順位を上げることができました。英語が苦手なので、来学期は重点的にがんばり、来年のKCSEにも備えたいです。

【ケジアさん】
3学期には大半の科目が改善できました。生物はD+とあまりよい成績ではありませんでしたが、将来医者になりたいので努力します。

【ケネディさん】
今期は、目標の成績を達成するため、英語の勉強にベストを尽くしました。おかげで、これまでずっと成績が悪かった英語の成績を伸ばすことができました。試験は本当に難しかったですが、今回の目標を達成するためにこれまでもがいてきた結果が現れたと思います。



【エスターさん】
全体的に成績が下がってしまいました。その中でも特に数学と地理とbusiness studiesをもっと頑張る必要があると分かりました。自分のベストを尽くせるように頑張ります。

日本人会ふれあい祭りレポート

2018年9月15日に日本人学校で開催されたふれあいまつりに参加させて頂きました。この日は新作のサファリカーTシャツ、バルーンTシャツ、キコイハンカチが初お披露目。ブースに来ていただいた多くの方がお土産やご自分用にKESTESグッズをお求め下さり、62,000Kshの募金をいただきました。

当日はKESTESについての紹介ムービー、奨学生紹介のポップを用意し、活動内容の説明もさせて頂きました。新規サポーター様、既存サポーター様の継続手続きをさせて頂く中で、KESTESが多くの方に支えられている団体であることを改めて感じた1日でした。

会場ではおいしい日本食やかわいい雑貨屋さんなど、様々なお店が出店しており私たちも活動の傍らお祭りを楽しむことができました。出店の機会を頂いた日本人会の皆様、本当にありがとうございました。

（2017年度3次隊　前田有貴子）

KESTES卒業生インタビュー

KESTES奨学生として2014年まで支援していたJavier Phareshさんにインタビューをしてきました。卒業生のその後をお届けします。

現在は何をしていますか？また、いつKESTESに支援されていましたか？

私は現在、モイ大学の4年生として、銀行・金融を専攻しています。KESTESに支援してもらっていた期間は、2011年から2014年までです。

高校時代に身につけた最も大きいことはなんですか？

一つ目は、規律ある人間として、誠実であることの大切さを学んだことです。時間を守ることも高校時代学んだことの一つですね。二つ目は、コミュニティに貢献する情熱が大きくなったことです。そして三つ目は、いいリーダーシップを身につけることができたことです。学校では生徒会長を務めていましたし、今ではモイ大学の学生会長として、他の生徒の支援を行っています。

将来は何をしたいと考えていますか？

今は、修士号を取得するまで勉強を続けたいと思っています。そして、不動産業などの分野で、起業をしたいです。しかし、私は今、経済的に厳しい状況にあるので、まずは、コミュニティを助けるような仕事をして、お金を稼ぎたいです。そして稼いだお金で、勉強を続けます。

大学卒業後すぐは、JICAでボランティアをするなどして、私がこれまでJICAボランティアから受け取ったものを社会に還元したいと思っています。

将来は、孤児院を作ったり、ケニアの生徒たちのための奨学金を設立したりもしたいですね。もし私が日本で勉強する機会を得ることができたら、他の学生にもその機会を教えてあげて、一緒に日本で勉強をしたいと思っています。そして、ケニアに帰ってきたときに、彼らと共にケニア社会のために働きたいですね。

現在のKESTES奨学生へのメッセージ

みなさんは、自分がありたいような人間であるように努めてください。それが、みなさんの目標を達成する助けとなります。きっと他の生徒たちも皆さんの行いを真似するようになるでしょう。何か問題を抱えている時は、すぐにKESTESのボランティアたちに相談してください。そして、一番大切なことは、学校にいる時は真面目に、規律を忘れないことです。応援しています。

（2017年度3次隊黒田篤槻）

KESTES委員OBインタビュー

KESTES第二代代表を務めた池田敏OBより寄稿をいただくことができました。30年以上前のKESTESが誕生当時の、貴重なお話をお届けします。

30年以上前の古い隊員です。昭和60年度1次隊で理数科教師としてケニア共和国サウスニャンザ県のハランベースクール（地元有力者の寄付で建てられた学校）で教えていました。赴任して半年後に政府雇いの校長が突然辞任し、理事会はやむなく外国人の私を次の校長に指名しました。KESTESのお仕事を始めた時期と重なります。

ハランベースクールはどこもそうであったかもしれません。私の勤めていたGOGO SECONDARY SCHOOLは極め付けの極貧校で、赴任当初、私の住む家もない有様でした。（本来、協約上住居の提供がないと赴任できないはずでしたが、しばらくは一人の理事の家の一間で暮らしてくれ、と言われ、校長になるまでそれが続きました。）電気、水道はなく、水は約5km離れたビクトリア湖から汲んで生活しておりました。生徒の家も現金収入はなく、学費徴収の頃、市場に行くと生徒の親が貴重な家畜を売っている姿を目にしたものでした。校長の仕事でもっとも重要なことが学費集めでした。私は生徒の家を一軒一軒訪問し、この家はまだ余裕がある、この家はこれ以上きつく言っても駄目だという診断をしていました。優秀なのに、学費未納のため学校からは追い出さなければならない、仕事とは言え、きつい作業でした。

そのような中、KESTESの歩みはまさに光でした。ただ、始めた頃（私は第2代の代表でした）は理数科教師隊員中心のもので、他職種の隊員からは冷ややかな目で見られていました。「お金を援助するのではなく、技術移転が俺たちに課されたことだろう。」という彼らの主張は正しいものだと感じました。それでも現に目の前で学校を止めざるを得ない希望の生徒たちを放って置くことはできません。苦しい板挟みの中、広報活動を進めました。何か参考になるドキュメントがあれば定款を作れると思い、初代代表の肥後さんとブリティッシュ・カウンシルに相談に行きました。そんなものはないから自前で作れと言われました。もちろん、そんな時間も知識もなく、定款作りはとん挫したまま任期は切れてしまいました。
先日、同期会が開催され、KESTESが続いていることを知り、嬉しくなって事務局に連絡を入れた次第です。

援助した生徒たちの行く末も見られることに感動を覚えました。30年前はPCも普及しておらず、HPなんて夢にも考えられませんでした。機関誌「はらんべぇ・れお」はガリ版印刷で関係者に配った記憶があります。HPを拝見して、その内容の充実ぶりに本当に感動しました。これならば、持続性が約束されています。それは本当に素晴らしいことだと思っています。アフリカは希望の大陸です。そのアフリカで人が育つことは人類全体にとって大きな益であることは間違いありません。KESTESが今まで通り、そして可能ならば今まで以上に多くのケニアの希望の星たちに寄り添い育て続けてくださることを心より期待しております。

池田　敏

チャリティオークション レポート

11月9日（金）にケニアのJICAボランティアが一同に集まる隊員総会があり、その機会にKESTESチャリティーオークションを開催させていただきました。隊員総会終了後、自由参加だったにも関わらず多くの方にご参加いただき、オークションは大盛況。その結果思わぬ高値となった品もありましたが、「チャリティーだから」とみなさん気持ちよくお買い上げいただきました。着任したばかりの新隊員にとっても物資調達のよい機会となったようです。今回人気だったのは意外にも思える調理器具。タジン鍋やハンドブレンダー、漬物器など、料理上手な隊員が多いのかもしれません。そのほか日用品や日本文化を紹介できるような品々（浴衣・扇子・将棋など）が出品されました。これらオークション品はすべて帰国した隊員や現役隊員からの寄付によるものになります。ご協力くださったみなさま、ありがとうございました。今回の売上は19,570Kshでした。このお金は奨学生の支援のため、大切に使用させていただきます。

（2017年度2次隊　高津早由里）

総会レポート

12月16日（日）に2018年度第3回の総会が開かれました。今回は新規加入の隊員5名を含む23名が参加しました。資金の運用、支援のあり方、ロゴについてなど、様々な議題について話し合われた後、お昼を挟み奨学生の近況報告および新たな奨学生支援についてのプレゼンテーションと採決が行われました。今回は1人の奨学生を新たに支援することが決まりました。

さて、今回私は初めて総会に参加させていただき、先輩隊員のこれまでの活動の様子を知ることが出来ました。約30年間続いてきた奨学生支援。時代の流れとともに変化する社会の中で、支援のあり方や団体の運営・資金の運用の仕方など、その都度話し合って改善していかねばなりません。そのために総会があるのだと実感できました。奨学金を助成するだけではなく、実際に隊員が奨学生に会いに行き、交流を通してサポートする「顔の見える支援」がKESTESの良いところ。会の最後、次回総会までに任期を終えて帰国する7名の隊員の言葉に、これまでのKESTESでの活動に対する熱い想いを感じました。

（2018年度1次隊 菊池篤）

KESTESグッズができるまで

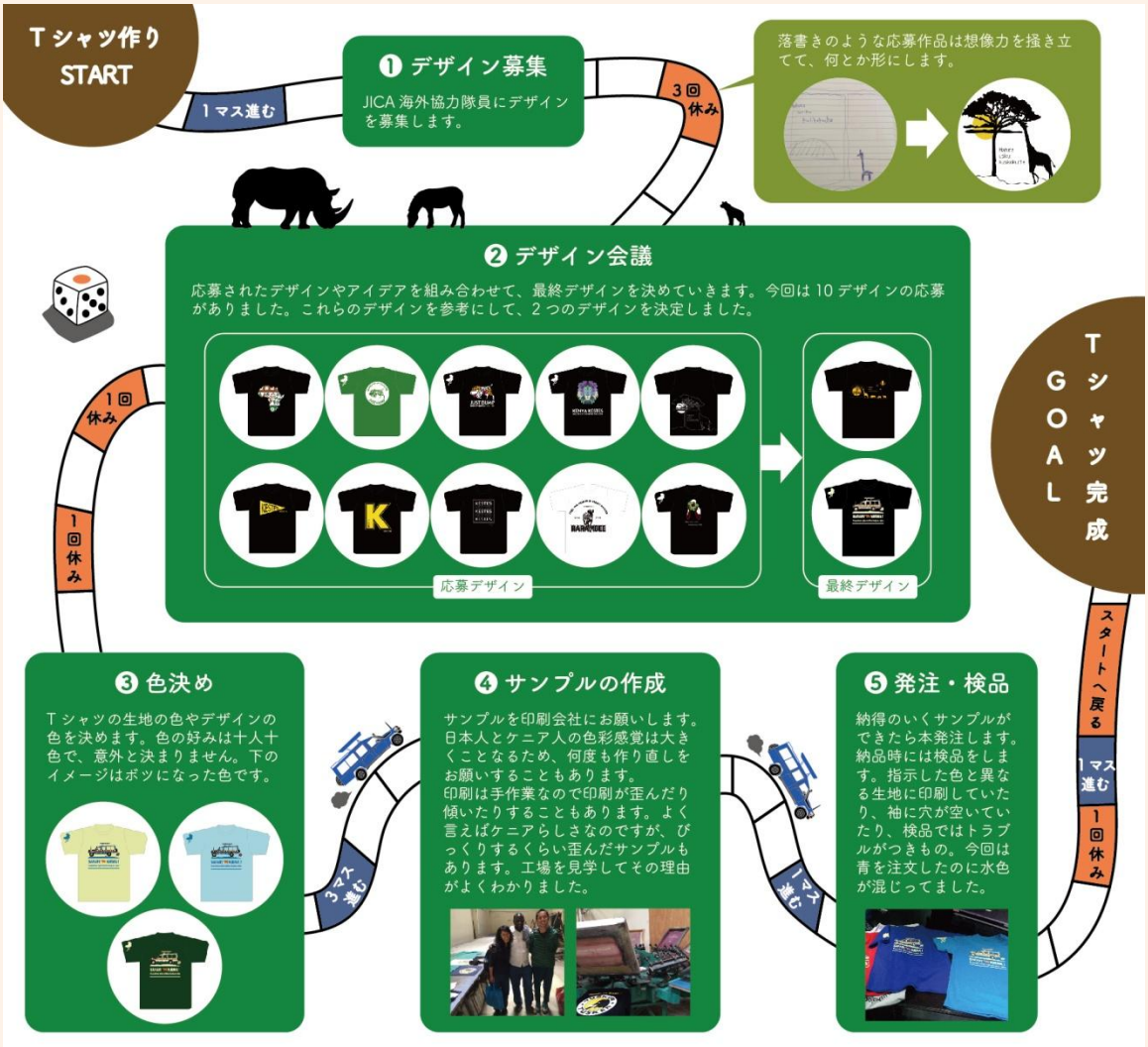
KESTESの定番グッズと言えばTシャツです。ここ2年間は「新しいデザインは出ないの？」というご要望にお応えするため、新たに3種類のTシャツ（ブレーメンT、サファリカーT、バルーンT）を作りました。今回はそのTシャツがどうやって作られているのかを教えちゃいます。

まずはデザインです。（すごろく①）デザインはJICA海外協力隊員から募集しています。絵を描くことが好きな隊員が応募してくれます。また、世界中の隊員の中にはデザインを専門とした方もいます。時には隊員ネットワークを使ってプロのデザイナーにお願いすることもあります。応募デザインの良いところを掛け合わせて、グッズ開発担当者が最終デザインを作り上げ、色を決めていきます。（すごろく②、③）

次にサンプル作りと発注です。（すごろく④、⑤）ここからはケニアにある印刷会社に依頼することになるのですが、一筋縄にはいきません。印刷は全て手作業で行われるため、色が全く違ったり、デザインが歪んでいたり、色落ちしたりと様々な問題が発生し大変です。これまでもより質の良いTシャツを作ろうと何度も印刷会社を変え、現在はやっと見つけた腕のいい印刷会社でプリントしています。最後に検品して、完了です。

これからももっと質が良くて、ハッとするデザインのTシャツを作っていこうと思いますので、KESTESのTシャツから目を離さないでください！

（2017-2次隊 真利 一馬）



KESTESは以下の企業様のサポートを受けています。

いつもご支援ありがとうございます。

ETA
Environmental Technology Africa
CONSULT, INNOVATE, IMPLEMENT

http://www.eta.co.ke/

MITSUBISHI MOTORS

https://www.mitsubishi.co.ke/

MAGNOLIA

okazetta.magnolia-mining.com

EXCIA East Africa, Ltd.

http://exciacarhires.com/

【「はらんべぇ・れお掲示板」をご活用ください！】

サポーター様の間で共有したい情報、お知らせ、募集等がありましたら、KESTESまでご連絡ください。当誌掲示板にて掲載いたします。年３回発行のため急案件の告知には向きませんが…サポーター様各位とケニア中に散らばるKESTES委員による、強力な情報ネットワークが強みです。お問い合わせは下記右下にある代表アドレス、または広報班（kestes.kouhou@gmail.com）までお願い致します。ぜひご活用ください！

KESTES新メンバーのご紹介

総務班　佐野　剛成　（2018年度2次隊）
会計班　仲田　愛緒美（2018年度2次隊）

文責：2017年度2次隊　奥山美桜

KESTES運営委員29名（2018年1月1日現在）
奨学生7名（2018年1月1日現在）
Kenya Students' Educational Scholarship
Website：
https://kesteskouhou.wixsite.com/kestes
問い合わせ先：
kesteskenya@gmail.com

KENYA STUDENTS EDUCATIONAL SCHOLARSHIP

編集・発行: KESTES 広報班